

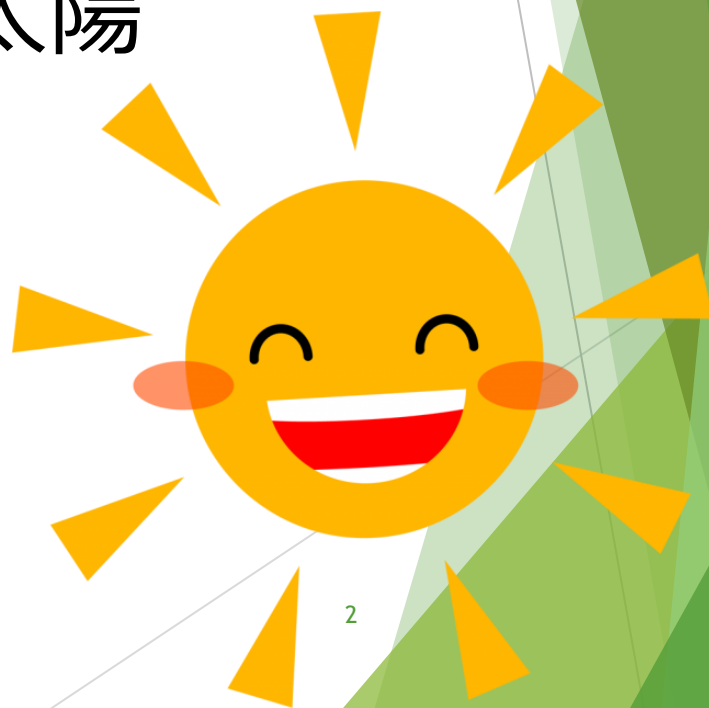
宝塚市せいかつ応援センターの ひきこもり支援について

宝塚市社会福祉協議会
せいかつ応援センター
市山 大樹

1. ひきこもり支援とは

ひきこもり支援は...

『北風と太陽』の太陽



2. ひきこもりとは

【定義】

様々な要因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念(※他者と交わらない形での外出をしてもよい)

「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」(平成22年5月)による定義
厚生労働省HPより抜粋・引用

(推計)

・令和4年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」(内閣府)の結果では、ひきこもり状態にある人は15～39歳で2.05%、40～64歳で2.02%となり、全国では約146万人と推計される。

・宝塚市に当てはめると、15～39歳で1,066人、40～64歳で1,681人となり、合計で2,747人と推計される。

**(宝塚市人口222,404人／15～39歳 52,009人
40～64歳 83,243人 ※令和5年8月末現在)**

3. せいかつ応援センターのひきこもり支援

せいかつ応援センターでは、2015年の設置以降、
「制度に当てはまらない方の相談窓口」として、
「ひきこもり」の方の相談を受けてきた。

※せいかつ応援センター

- ・生活困窮者自立支援法に基づき、
2015年度に設置（市から社協が受託）
- ・生活保護に至る前の第2のセーフティ
ネットとして、「制度の狭間」にある
方への支援を行う窓口。



ひきこもり相談の件数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
新規相談件数	485	465	428	379	452	2,338
内、社会的孤立に関する相談	29	44	29	27	15	54
割合（％）	6.0%	9.5%	6.8%	7.1%	3.3%	2.3%

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
新規相談件数	985	555	353	490	515
内、社会的孤立に関する相談	45	32	26	36	59
割合（％）	4.6%	5.8%	7.4%	7.3%	11.5%

相談事例

30歳の長男について、母親から相談

- ・ 母親と長男の二世帯（母親は25年前に離婚）。長男は中学1年の3学期ごろから不登校気味になったが、高校へは進学することができた。しかし、高校は1年で退学。その後、通信制高校に入学し卒業したが、アルバイトを含めた就労の経験はない。
- ・ 今は自身の部屋でインターネットやゲーム、音楽を聞いて過ごしている。連絡を取り合っている友人はいない。時折、コンビニへ買い物に行く程度の外出はある。
- ・ 母親との関係性は悪くはなく、暴言、暴力等はない。母親としては、親亡き後のことが心配で、長男が社会とつながるきっかけが欲しいと考えている。

家族、親族等
から相談を受ける

ご本人から相談
を受けることも

本人と面談

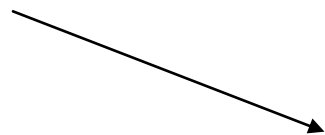
本人に会えるまで
数年かかることも
ある。

本人の「やりたいこと」
「興味があること」から
始める

「仕事」に限定し
ない。趣味や遊び
から始めることも
ある。

居場所や体験を
通じて、次の一
歩に繋げる

自立



就労体験（ネットスーパーのピッキング）



就労体験（清掃）



事務体験Day

毎月第3月曜日
10時～12時
交通費1,000円を支給



ラベルの
修正作業

記念品の
袋詰め作業



スミレン'sワークいろいろ

2021年に当事者がグループを立ち上げ、自主グループとして活動を開始（せいかつ応援センターが後方支援）。

民間企業から仕事（内職的な仕事）を得て作業を実施している。
当事者支援の新たな取り組み。

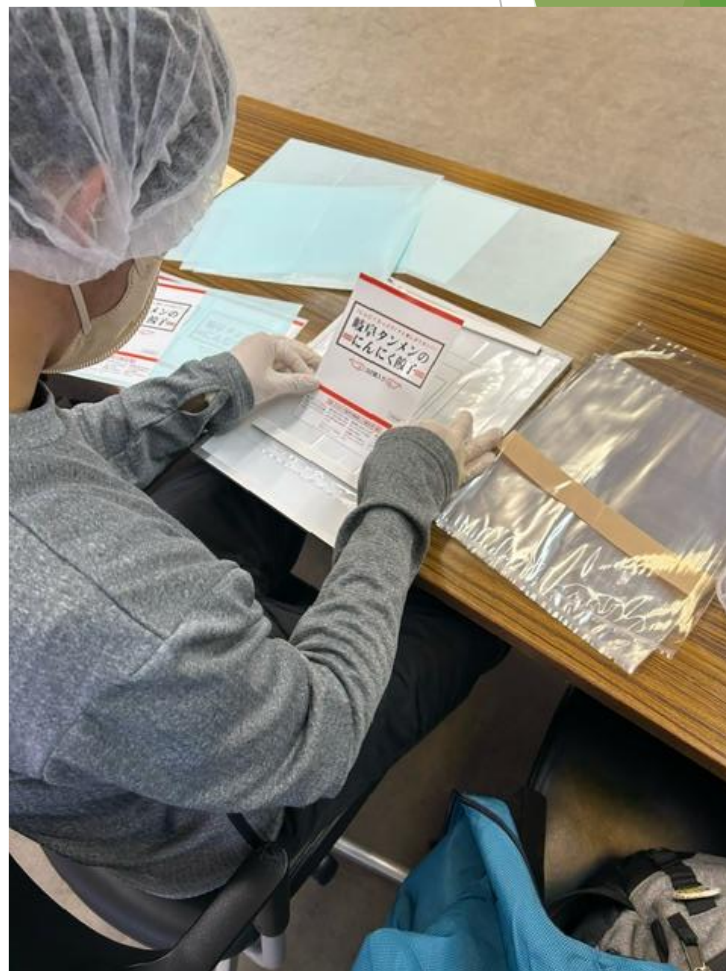
毎週の活動に加え、地域のイベントにも参加している（夕暮れコンサート等で焼きギョウザを販売）。また、参加者同士のつながりから派生イベントも実施している（ボードゲーム大会、ミサンガ作成会、歌劇観劇、競馬場ツアー等）。

**2022年度、16名が
いろりに参加し、
8名が就労（短時間就労
を含む）の一步を踏み
出しました。**

スミレン'sワークいろいろ



スミレン'sワークいろいろ



4. スミレン'sワークいろいろを 中心とした本人たちの変化

最近、〇〇さん
来ていない
けど、元気
ですか？



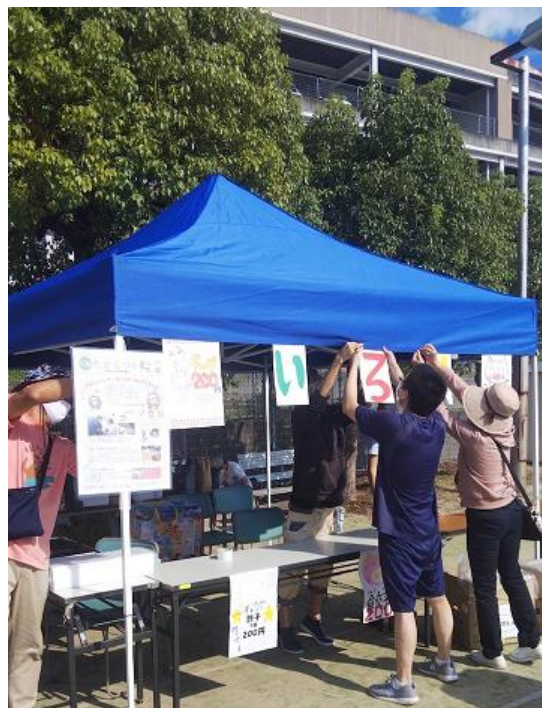
「みんな」
で「一緒に
帰る」から
大丈夫で
す！



ひきこもりの方は、他者への関心が薄い方が多い。
その中で、毎週スミレン'sワークいろいろで顔を合わせることで、
お互いのことが「気になる」「気にかけて合う」関係に変化してきた。



「今なら、自主的に取り組めるかも！」と、活動をPRすること、活動費を得ることを目的に、地域のイベントへの出店を提案したところ、自分たちで企画し参加。





OSORAマルシェで
スミレンを誘導！

自分でチラシを作成し、ミサंगा
講習会を実施。
作ったミサंगाは、ガチャガチャ
募金の景品に！



せいかつ応援センター・いざり交流会 ～ミサंगा手作り会～

日ごとに春めいてまいりました。
皆様 いかがお過ごしでしょうか？
この度「ミサंगा手作り会」を開催いたします。
どなたでも簡単に作れますので、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。
ご参加いただける方は3月24日(金)までに
下記へご連絡ください。

【日時】3月29日(水)13:00～15:00
【場所】中央公民館2階208学習室
【持ち物】なし



連絡先:せいかつ応援センター
TEL:0797-77-1822

いろりに参加をしながら、新しい一歩を踏み出している方もいる。



趣味の手芸作品を、
「宝塚市手工芸展」
へ出品！



得意のダンスを活
かして、「イケダ
レンジャー」で
活躍！



5. レクリエーション活動

ゲーム大会



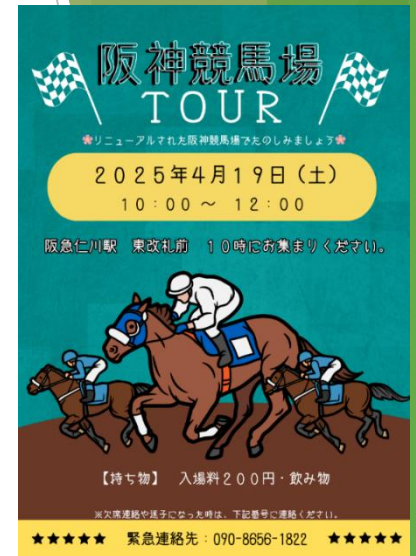
いろいろにいられていない方も参加しました！



手芸サークル



宝塚歌劇観劇ツアー、阪神競馬場ツアー



6. 社協内の新しい取り組み

ちから たくわえ中

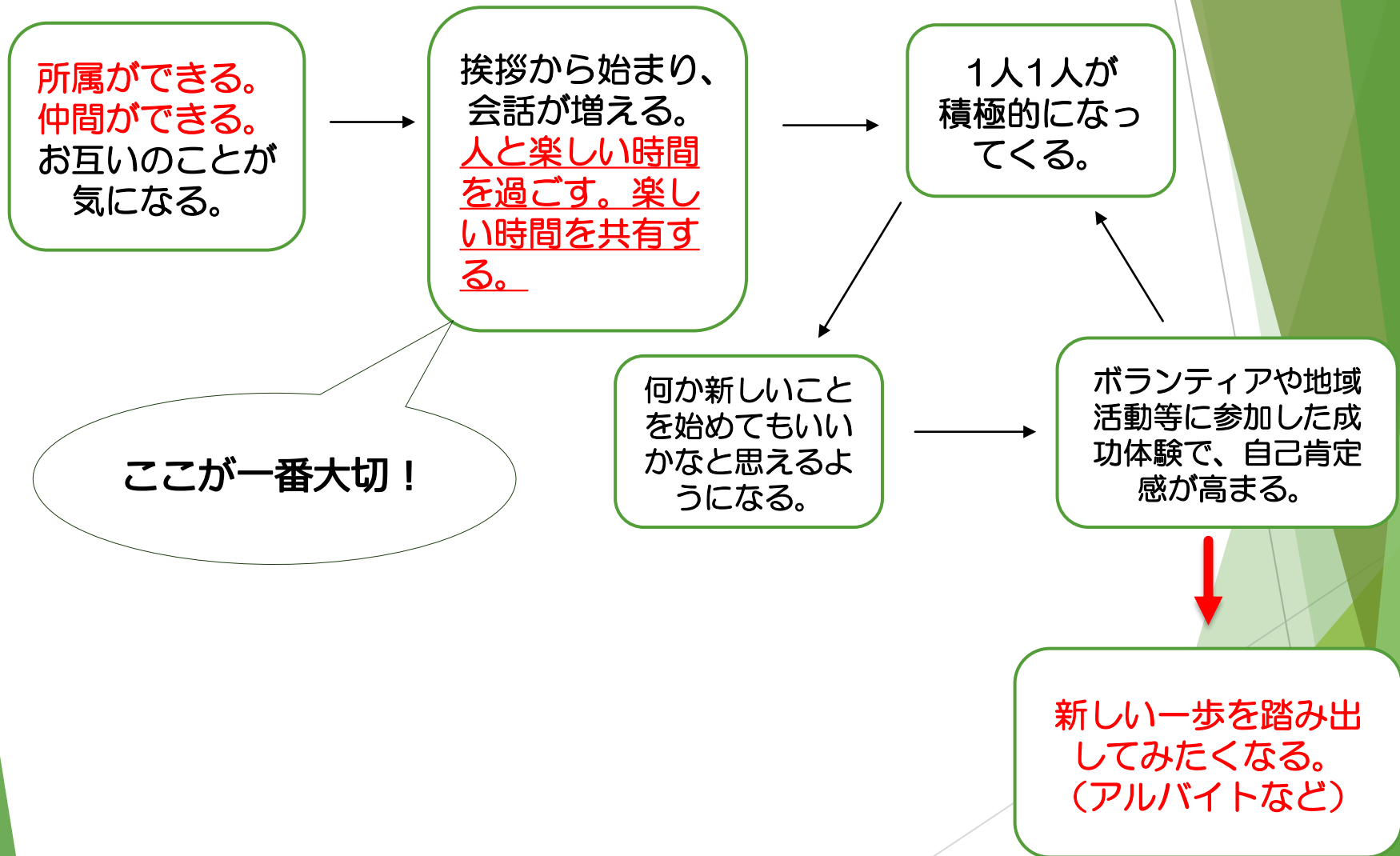
(地区担当支援課、ほっとかへんネットワーカー事業と共同で実施)

たくわえ亭

(地産地消プロジェクトで実施)



7. まとめ



いろりに参加することができる方は次の一步に進んでいる方と考えられるが、なかなか次の一步が出にくい方も多くいる。家族等から相談を受け本人に会えるまで数年かかる方もいる。本人と定期的な面談ができるようになれば、話だけをするのではなく、人（家族以外、相談員）に『また会いたくなる』支援を心掛けています。



面談ではゲームや手芸、街ぶらをすることもある。

本人の興味がある内容を盛り込みながら面談を実施している。
楽しい時間（笑える時間）を過ごし、人への不安や恐怖心を
軽減することを意識している。



ひきこもり支援は、外に出ること、人に会うこと、働くことを支援するのではなく、外に出たくなる、人に会いたくなる、働きたくなる気持ちを醸成する支援。

その気持ちの醸成は個人により異なる。

本人に関わる人がどうすればその気持ちを育むことができるのかを考えることが大切！

（外に出ろ！働け！ではない）

本人にとっての『太陽』であることが大切！



ご清聴ありがとうございました。

